

氏名	大 谷 典 子
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2372 号
学位授与の日付	平成 4 年 3 月 28 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Platelet Taurine Concentration and Uptake in Gestosis Patients with Edema, Proteinuria and Hypertension (妊娠中毒症妊婦における血小板内タウリン濃度とその取り込み能)
論文審査委員	教授 産賀 敏彦 教授 佐伯 清美 教授 清野 佳紀

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

妊娠中毒症では血液凝固系は亢進する血小板凝集能は逆に低下し、その理由は不明である。そこで血小板内に多量に存在し、血小板凝集能を抑制する作用がある遊離アミノ酸であるタウリンに着目し、妊娠中毒症における血小板へのタウリン取り込み能について検討した。

まず、妊娠後期の正常妊婦18例、妊娠中毒症妊婦15例の血小板および血漿中タウリン濃度を測定した。その結果、血小板内タウリン濃度は重症妊娠中毒症で有意に上昇していたが、血漿中タウリン濃度に有意差は認めなかった。

またこれらの血小板のタウリン取り込み能を測定したところ、そのV_{max}値は妊娠中毒症の重症化とともに指数関数的に増大したが、K_m値に差はなかった。

以上の結果より妊娠中毒症では血小板へのタウリン取り込み能が増大し、血小板内タウリン濃度の上昇をもたらすことにより、血小板凝集能を低下させ、凝固系のホメオスタシスの破綻を防いでいると考えられた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は妊娠中毒症に関する研究であるが、妊娠中毒症患者における血小板凝集能低下と血小板のタウリン取り込み能増加および血小板内タウリン濃度上昇の関連に関して重要

な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。